



広報えびな

編集・発行
海老名市役所広報広聴課
〒243-04
神奈川県海老名市勝瀬175
☎ (0462) 31・2111

大地震に備え防災知識を身につけることが大切（去年の総合防災訓練で）



9月1日は防災の日

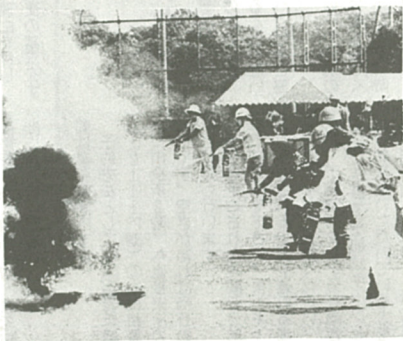
防災訓練にご参加を

海西中で総合防災訓練

市では、九月一日の「防災の日」に、海西中学校を会場として次のように「総合防災訓練」を行います。
【会場】海西中学校校庭
【対象地区】さつき町、さつき町、同原口

大地震！そのときあなたは

九月一日の「防災の日」を中心に、市内各地で防災訓練が行われます。海老名市は、東海地震の「地震防災対策強化地域」の指定を受けています。いざというときのために、積極的に訓練に参加して避難の仕方や消火器の使い方などを身につけましょう。また、各家庭でも、地震の被害を最小限に抑えるための心構えや備えを確認しておきましょう。



上郷の一部。
【内容】▽災害発生（想定）後の同校への避難誘導訓練
▽消火器を使用した初期消火訓練
▽三角巾を使用した応急手当
▽炊き出し訓練、非常食の配布
▽同校校庭に設置してある非常用飲料水貯水槽からの給水訓練。
このほか、県警のハリコブタ

や、消防署員による起震車と煙体験ハウスを使った訓練も行われる予定です。



九月一日の午前八時四十五分に、内閣総理大臣から地震防災対策強化地域に警戒宣言が発令されたとの想定で、市内全域に防災行政広報無線を通じてサイレンを鳴らし、警戒宣言の内容をお伝えします。
また、同日午前九時十分には、さつき町、さつき町、同原口、上郷の一部区域に大地震発生（想定）のサイレンを鳴らします。

自主防災組織などでも実施

八月三十日（木）から九月五日（水）までの防災週間中、市内各自治会の自主防災組織を中心に、学校や事業所などでも防災訓練を実施します。
自主防災組織は、町内会や自治会などの単位で結成されています。



小学校とも連携

東柏ヶ谷5・6丁目 自主防災隊

市内四十六自治会には、すべて自主防災組織がありますが、活発な防災活動を行っている自主防災組織の一つが「東柏ヶ谷五・六丁目自主防災隊（同原友行・植木悦雄隊長）」です。
同隊では、毎年六月と九月に防災訓練を実施。毎回五十人から八十人の参加があり、今までの延べ参加人数は六月内の世帯数とほぼ同じになるそうです。六月には自主防災隊としては初めて海老名市医師会の医師を招き、やけどの手当や心臓マッサージなどの指導も受けています。

写真

九月一日の防災の日には、東柏ヶ谷小学校と合同で午前十時から防災訓練を行う予定です。学校から児童の引き渡しを受け、校庭で初期消火と応急避難の訓練をした後、広域避難場所の備前芝精機までの避難訓練をします。同隊では多くの人の参加を、と呼びかけています。

いつ・どんなときに襲ってくるかわからないのが地震です。地震の発生そのものを防ぐことはできませんが、日ごろの心構えや備えによって、被害を最小限に抑えることができます。

心掛けたい日ごろの備え

被害を最小限に抑えるために

- ▽家の中の安全点検を家の中には、タンスや食器棚など、倒れやすい危険な家具があります。地震で転倒しないように、壁に家具をシ字金具などで止めておきましょう。
- ▽消火用具は大丈夫？ 消火器や三角バケツなどを備え
- ▽防災用品の準備を 飲料水や食糧、救急医薬品類、懐
- お風呂にいつも水をためてお
- けは、いざというとき役立つ
- ます。
- ▽家族の役割分担
- ▼火の始末と初期消火の方法について
- ▼離ればなれになったときの家族の連絡先と連絡方法
- ▼避難場所と避難経路の確認など。

フォトピックス

もう水は怖くない
親子水泳教室で完泳組も
泳げない小学一、二、三年生
とその親を対象にした「親子水
泳教室」が、七月二十五日から
中新田小学校で、八月一日から
上星小学校でそれぞれ五日間行
われた。



中新田小学校では、二十七組
五十四人の親子が市水泳協会の
会員十人の指導で、準備体操の
後、バタ足や水中輪くぐりを練
習。最初は水を怖がっていた子
供たちも、大人たちに励まされ
て、徐々に水中でも活発に動き
回るようになった。

同教室は、水泳技術の向上よ
うに、

農作業つて大変
小学生40人が体験農業
市内の小学六年生が農家に泊
まり込み、農作業を行う「体験
農業農家宿泊研修」が、八月二
日、三日に行われた。

この研修は、海老名市農業後
継者対策協議会(竹内吉宣会長
が三年前から行っているもの
で、児童たちに家庭の世話や農
作業を通して農業の大切さを知
ってもらい、同時に夏休みの楽
し



しい思い出を提供しようとい
うもの。

小学校を通じて、募集したと
ころ、応募者は計百九十八人、
抽選で四十人が二、三組に分か
れ、二十軒の農家に宿泊を。
一日午前九時、下今泉の塩脇
和男さん(果樹園芸、44歳)宅
を訪れた東柏ヶ谷小学校の古部
美香さん、小野田純子さん(写
真)は、さっそくナシのもぎ取
りから袋詰めを体験し、
「大好きなナシも、お店で売
られるまでの作業は結構大変」
と、感想を話していた。

り、まず水に慣れることが目的だが、五日目にはクロールで二十五分完泳する子供も出て、徐々に水中でも活発に動き回るようになった。



青年の祭典に 約4万人来場

七月二十一日、二十三日の両日、海老名中央公園で「青年の祭典」が開かれました。天候にも恵まれ、約四万人が来場した同祭典の様子を、広報モニター「金指和子」さんに取材していただきます。

入ってみたいは玉手箱

演じるほうも汗だくです。YOUTH in Ebina(ユース・イン・エビナ)と鮮やかな文字が書かれたTシャツも汗で体にびったりと張りついていてはありませんか。しかし、それすらも気にせず熱中しています。思わず「頑張てね」と声をかけたくなりました。

熱気であふれるステージを通り抜け、右側に並ぶボランティア団体などの模擬店で、バザーの作品や手作りのパッチを見ながら広場へ入ると、そこにはぬいぐるみのパッチや、ホイールクラフトの「さん」と書かれた子供を相手に活躍していました。入った今年テーマは「入ってみたいは玉手箱」。中学生、高校生、子供までが楽しめる工芸が盛りだくさん。夜になり、フィナーレには疑ったロックが勢いよく盛り上がり、ロックの演奏者がステージから飛び降りての大熱演。演奏者を追う照明係も懸命な、観客のアンコールも元気いっぱい。まさに若者たちが一体となった、青年のための祭典となっていました。



若さあふれるジャズダンスも披露

(金指 和子)

海老名むかしむかし

第238話 禪をしめた狐

園分の上今泉境町と町合いう。聚落がある。禪を逆さに立てたような形の屋敷木がなければ、そこに人家があるのさ。えわかわらないような街道から離れた丘の小さな集まりで、戸数の少ないせいもある。てななにかにつけてよくまとまり、長い間一大家族のような和やかさであった。

しばらくふりて雨が降ったので、女衆たちが集まって女日持ち(女衆たちの密会)をしたときのことである。宴たけなわの折、女の小間物行商人が訪れた。浅黄の手甲細袴に草鞋はき、襦袢の着物を短く端折って、背には小間物をつめた重ね手籠を細一反風呂敷で背負い、その上に大きな桐油合羽を掛けて、腰に腰紐を解き背篋を外して土間に入った行商の女は、「まあ、今日はおかみさんがた沢山お集まりで。小間物の旅商いなんです。見るも道楽聞くも法楽、見るだけでも見てくださいな」

と、荷を張り出しの板の間を下ろした。

小間物は「細物」の意味で、主に婦人の化粧品、髪飾り、その他のごまごましたものことだが、中には印伝の財布や煙草入れなどの高級品もあつた。女は行李の中の商品を味いっばいに並べて言葉巧みにすすめた。

いつの時代でも女たちはこうしたものには関心が強い。飲み食いもそっちょのけにしい、あれがいい、これがいいの籠の根柢め、燗、すき燗、



「御馳走になりましょう」と草鞋を脱いで上がり込んでしまった。またひとしきり話して見ると、二十四か五であつた。

それが男のような腰刀をさしたのだから、なんびつくりしたが、正面にいた若いおかみさんは顔色を変えた。それは女が白丸のするような唐木綿の襦袢をのめしているのを、きり見てしまったからである。まず脳裏をかすめたのは、女装した男に違いない、ということだつた。こんな人間と同席していたら顔が面赤だと思つたので、そつと隣に座っているおかみさんに耳打ちして席を立つてしまった。

女装した旅商人や行商の人はしばしば耳にも、また話題にもした。みんな同じことと直接関係のないことばかりだつた。しかし、実際に同席したことが確にでもなければ家庭騒動のものになる。この前園分の宿に旅業者と駆け落ちした農家のかみさんが、話題の乏しい農村のことと長い間話のたねになつて、女が、ようやくその話が下火になつたばかりである。

時折、旅業者の一隊が園分の宿で興業することがあったが、常設の小屋がないのでいつも丸太小屋での興業で、雨でも降つたらみじめなものだつた。

ことに長雨でもあれば取入の道は絶え、青息吐息雨の晴れるのを待つよりほかに道はなかつたが、そんなとき座員たちは食いつなぎに近在を回つて小間物や端切れなどの行商をしたものであるが、中には分別の足りない小娘を騙して食い物にしたり、金持のの家を探してころがり込んで、だりする悪質な連中もいて、

「御馳走になりましょう」と草鞋を脱いで上がり込んでしまった。またひとしきり話して見ると、二十四か五であつた。

それが男のような腰刀をさしたのだから、なんびつくりしたが、正面にいた若いおかみさんは顔色を変えた。それは女が白丸のするような唐木綿の襦袢をのめしているのを、きり見てしまったからである。まず脳裏をかすめたのは、女装した男に違いない、ということだつた。こんな人間と同席していたら顔が面赤だと思つたので、そつと隣に座っているおかみさんに耳打ちして席を立つてしまった。

女装した旅商人や行商の人はしばしば耳にも、また話題にもした。みんな同じことと直接関係のないことばかりだつた。しかし、実際に同席したことが確にでもなければ家庭騒動のものになる。この前園分の宿に旅業者と駆け落ちした農家のかみさんが、話題の乏しい農村のことと長い間話のたねになつて、女が、ようやくその話が下火になつたばかりである。

時折、旅業者の一隊が園分の宿で興業することがあったが、常設の小屋がないのでいつも丸太小屋での興業で、雨でも降つたらみじめなものだつた。

ことに長雨でもあれば取入の道は絶え、青息吐息雨の晴れるのを待つよりほかに道はなかつたが、そんなとき座員たちは食いつなぎに近在を回つて小間物や端切れなどの行商をしたものであるが、中には分別の足りない小娘を騙して食い物にしたり、金持のの家を探してころがり込んで、だりする悪質な連中もいて、

「公方様のころのことだよ」と、上今泉の母方の祖母から度々聞かされた狐の話である。(小島 直司)

海老名むかしむかし
電話で海老名の昔ばなしが聞けます。
8月6日～8月20日 第69話 笠松と鳥比丘
8月21日～9月3日 第70話 前代未聞謎の大池